

大紅戸かわら版



21・老福連
第10回職員研究交流集会
ニュース 第5版

21・老福連第10回職員研究交流集会広報委員 発行

いよいよ大会本番ということで...『ととのいました!』

『介護保険』と掛けまして~

『10年使用したカーナビ』と解きます~

その心は...『どこにたどいつくかわかりません』



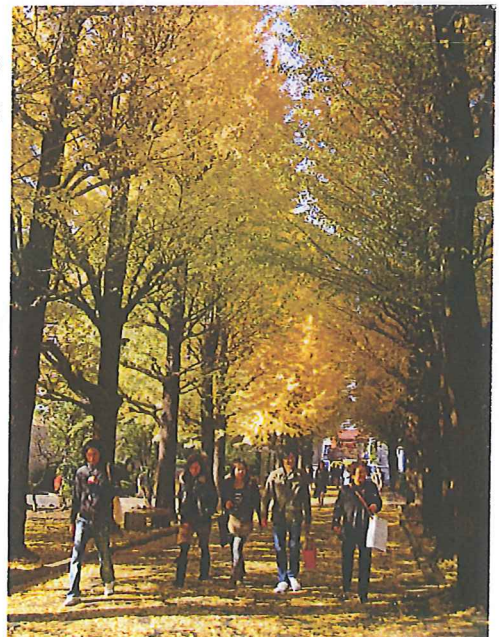
始まりました! いよいよ本番です!
今が盛りの色づいた銀杏と共に、参加者の想いも秋の青空に
乗せて舞い上がれ!

開会の言葉

「同じ志を持った仲間が集い、理解・協力し合い大いに学
びあって下さい」と歓迎の挨拶をされる相羽実行委員長

大会受付

受付開始!! 全国津々浦々からたくさんの
来場者がやってきました。本日の最終来場
者数は333名



歓迎セレモニー



大会開始前、大正大学雅楽倶
楽部による雅楽演奏。しっとり
とした日本古来の音楽に、みな
耳を傾け、心が洗われました

21・老福連からの基調報告



P



老福連は日本の高齢者福祉の良識と良心を束ね、先駆的開発的に発展を続けている。なかでも交流集会は豊かな援助実践を相互に学び、公的福祉の確立を訴え続け、介護保険と同じ10年(回)目！！

制度10年の歴史と12年ダブル改定の見通し・・・制度の流れに『緊急提言と運動を！！』



記念講演



まず介護保険法の成立が高齢者や介護労働現場にいかにか大きな影響を与えたかについて、わかり易くお話をいただきました。利用する側にとって快適な住環境を追求していくことが大切であり、また職員にとっても誇りと自身を持って働けるような環境を整備していくことが重要であるとのことでした。最後に原さんご自身の福祉哲学についてのお話もあり、大変内容の濃い講演でした

講師：原 慶子氏(社会福祉法人新生会理事長)

『それぞれの想いをスタートとして、くらしと人権を守る』

シンポジウム



利用者家族、福祉施設、地域の各現場の視点から、「それぞれの想いをスタートとして、くらしと人権を守る」をテーマにシンポジウムが行われました。

時間がなく、意見交換、参加者からの質疑まではいきませんでした。介護保険制度下での高齢者の実態や、そこに関わる現場や家族の想いが見られました

コーディネーター：宮崎牧子氏



大塚 佳世子氏



●家族の想い
家族会があったころには施設にも要求を出すことも出来たが、現場の状況を見るとなかなか言い出すことが出来ない。利用者家族としてできることはないか

稲垣 誠氏



●福祉現場の想い
利用者の人権を守るためには、現場の職員を守ることが不可欠である

清野 哲男氏



●地域現場の想い
課題を抱えた家族が増えている中で、高齢者の支援だけではなく、取り巻く環境も含めた包括的な支援が問われている

